

平成 26 年度

発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援・教職員の専門性向上事業

(発達障害理解推進拠点事業)

成果報告書 (概要版)

実施機関名 (鳥取県)

1. テーマ

教員一人一人が、特別支援教育や発達障がいに対する正しい理解を深めるとともに、適切な指導や必要な支援を実践し、児童生徒の学習や生活への意欲向上や不適応行動の減少を目指す。

2. 問題意識・提案背景

本県において、発達障がいの診断を受けている幼児児童生徒数は、5年前と比較して2倍となり、小中学校の通級による指導を受けている児童生徒数や特別支援学級在籍者数が年々増加している。各学校現場において、児童生徒の的確な実態把握や適切な指導・支援が十分になされず、学力不振や不適応が見られるケースは少なくない現状にある。また、学校間や教職員間における専門性の格差や温度差も課題となっている。そこで、校内全教職員が一丸となって、発達障がいや特別支援教育に対する知識理解を深め、発達段階に応じた適切な指導や必要な支援ができるよう専門性の向上を図ることが喫緊の課題である。そのために、各地域や学校の実情に応じた研修を企画・実施し、教職員の発達障がいに関する正しい理解を深め、児童生徒に対する学びの質の向上を目指すために、県内3地域に拠点校を設けて、実践研究を行うこととした。

3. 拠点校について

○ 拠点校一覧

設置者	学校名 (ふりがなを付すこと)
鳥取市	鳥取市立面影小学校 (とっとりしりつおもかげしょうがっこう)
湯梨浜町	湯梨浜町立北浜中学校 (ゆりはまちょうりつほくめいちゅうがっこう)
米子市	米子市立車尾小学校 (よなごしりつくずもしょうがっこう)

○ 理解推進地域内の学校一覧

設置者	学校名（ふりがなを付すこと）
鳥取市	鳥取市立桜ヶ丘中学校（とっとりしりつきくらがおかちゅうがっこう）
鳥取市	鳥取市立若葉台小学校（とっとりしりつわかばだいしょうがっこう）
鳥取市	鳥取市立米里小学校（とっとりしりつよねさとしょうがっこう）
鳥取市	鳥取市立津ノ井小学校（とっとりしりつつのいしょうがっこう）
湯梨浜町	湯梨浜町立羽合小学校（ゆりはまちょうりつはわいしょうがっこう）
湯梨浜町	湯梨浜町立泊小学校（ゆりはまちょうりつとまりしょうがっこう）
米子市	米子市立東山中学校（よなごしりつひがしやまちゅうがっこう）
米子市	米子市立啓成小学校（よなごしりつけいじょうしょうがっこう）

4. 拠点校における取組概要

【鳥取市立面影小学校】

拠点校において、特別支援教育や発達障がいに対する正しい知識の習得を目指し、児童生徒理解や適切な指導支援を行うことができる力の育成を目指し、校内教職員研修会及び県外視察研修を行った。また、拠点校に設置されている通級指導教室と連携し、保護者への理解啓発のための研修会を実施した。また、推進地域内の教職員を対象とした研修会の実施、中学校区拡大支援委員会や特別支援教育主任会の定期的な開催、個別の指導計画等を活用した学年委員会の開催等に取り組んだ。

【湯梨浜町立北浜中学校】

拠点校において、ユニバーサルデザインの授業づくりを目指して、LD等専門員（巡回相談員）を活用した教職員対象研修会の開催や先進校視察、教室のユニバーサルチェック表や授業のチェック表を用いた情報交換会の実施、全校で統一した掲示物の作成等を行った。推進地域内においては、全ての子どもに学びをもたらす授業づくりについての教職員研修会を開催した。また、保護者に対しては、PTA保護者研修会を実施し、ペアレントメンターによる寸劇や疑似体験、保護者の体験談等を通じた発達障がいの特性と支援について理解を進めた。

【米子市立車尾小学校】

拠点校において、特別支援教育を基盤とした校内支援体制の充実を目指すことに重点を置き、環境のユニバーサルデザインや授業のユニバーサルデザインについて教職員研修会を実施するとともに、ユニバーサルデザインの授業づくりについて授業研究会を行った。また、学校の環境・生活・授業を見直すために「自分ふりかえりシート」「教師のチェックリスト」を作成し、活用を進めた。

5. 主な成果

【鳥取市】

研修会を通して、教職員の発達障がいに関する理解が深まり、発達障がいの特性には連続性があり、多面的な視点をもって実態把握をしていくことの共通理解が図れた。特に、自尊感情が低い児童を含め、全ての子どもの居場所づくりが重要であることを再認識することができた。また、中学校区で個別の指導計画等を活用した学年支援委員会を計画的に実施し、気になる児童生徒の早期発見・早期支援につなげることができた。

【湯梨浜町】

拠点校においてユニバーサルデザインの授業づくりを推進し、全ての授業において「ねらいの提示」「学習の流れ」「ねらいに対応したまとめと振り返り」を共通実践したことにより、生徒アンケートの肯定的評価（先生は分かるように工夫して学習内容を教えてくれる）が9割以上となり、学習意欲の向上が見られた。また、保護者研修会を開催し、保護者の体験談や疑似体験等を通して、発達障がいの特性の理解やその支援について学ぶことができた。

【米子市】

拠点校において、「自分ふりかえりシート」「教師のチェックリスト」を作成し、児童の自尊感情についての実態把握と教室・仲間・授業のユニバーサルデザイン化の現状把握を行うことができた。また、全教職員で基本的なことを研修することは、共通理解を図る上で非常に効果があり、児童の学習上・生活上の課題に対する多様な見方と困難さの背景の理解へ気づきを広げていくことができた。

6. 今後の課題と対応

【鳥取市】

発達障がいの特性と支援の方法を理解した上で、一人一人の子どもが「できる」「わかる」喜びを実感するためには、スモールステップによる計画的・継続的な指導・支援が重要である。そのためには、現在作成している個別の指導計画を、有効なツールとして活用できる教員の専門性向上が必要である。また、愛着障がいに関する理解を深めていくことも必要であり、継続して研修を行っていく。

【湯梨浜町】

今年度の研修内容を授業実践に生かし、児童生徒の実態把握や適切な支援を行うことが今後の課題である。ユニバーサルデザインの授業づくりについて実践的な内容を研究するために、小中学校合同授業研究会を拠点校で開催する。また、保護者

研修会を設定することはできたが、参加者は少ない現状がある。保護者啓発については継続した取組が必要であり、地域一体となった理解推進を進めていく。

【米子市】

教職員で共通理解したことを実践し、自尊感情の高い子どもを育成することが課題であり、ねらいである。そのために、発達障がいに関する理解の研修の継続、校内及び中学校区におけるユニバーサルデザインの授業研究等、計画的な研修会実施を行う。また、人権教育の中で、特別支援学級や通級指導教室（通級による指導）に関する理解教育の充実を図っていく。保護者や地域への啓発については、学校だよりや学年・学級通信等での発信を工夫していきたい。

【全県】

発達障がいに関する一定の知識・技能をもち、児童生徒への適切な指導・支援を行うための教職員の専門性の向上は喫緊の課題である。各学校の支援体制の充実を図るために、各拠点校を中心とした取組の成果を研修会等の機会を捉えて全県に発信する。

7. 問い合わせ先

組織名：

- | | |
|-------------|------------------------------------|
| (1) 担当部署 | 鳥取県教育委員会事務局特別支援教育課指導担当 |
| (2) 所在地 | 鳥取県鳥取市東町一丁目271 |
| (3) 電話番号 | 0857-26-7598 |
| (4) FAX 番号 | 0857-26-8101 |
| (5) メールアドレス | tokubetusienkyoiku@pref.tottori.jp |